

令和8年度 総合職試験等からの 新規採用職員に対するアンケート

結果の概要

調査対象者 令和8年度初任行政研修を受講した職員 839人
有効回答数 820人(回収率 97.7%)(令和8年6月26日時点)

- ※1 本アンケートは、採用後3か月程度経過時点で実施したもの
- ※2 各問のグラフ中の「N」は、それぞれの問に対する有効回答数

〈用語の説明〉

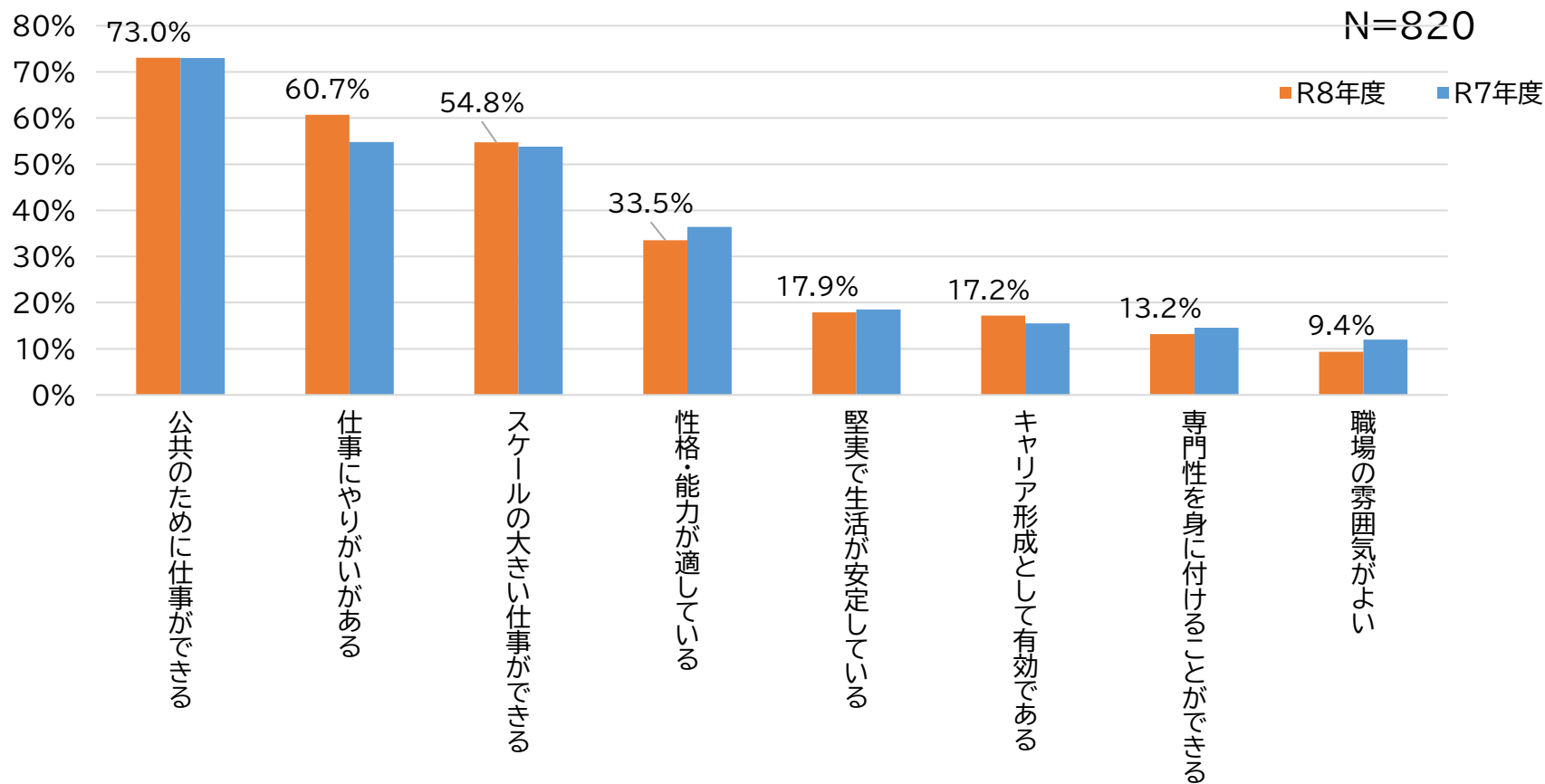
- ・「総合職試験等」とは、国家公務員採用総合職試験及び国家公務員採用総合職試験相当の試験(例：農林水産省獣医系技術職員を採用する試験)等をいう。
- ・「初任行政研修」とは、平成9年度に創設されたもので、人事院が、主として総合職試験に合格して新規採用された全府省の職員を対象に実施している研修である。

目次

1. 国家公務員になろうとした主な理由
2. 就職先として国家公務員を意識した時期
3. 就職先として国家公務員を意識したきっかけ
4. 採用された試験以外で合格または内定・内々定したもの及び民間企業の規模
5. 周りの優秀な学生の進路(文系)
6. 周りの優秀な学生の進路(理系)
7. 周りの優秀な学生が国家公務員以外の就職先を選んだ決め手
8. 将来どこまで昇進したいか
9. 国家公務員としていつまで働きたいか
10. どのようなタイプの上司の下で仕事したいか
11. 国際的な経験(留学・海外勤務など)への興味
12. 公務の魅力向上、優秀な人材の獲得のために必要と考えられる取組

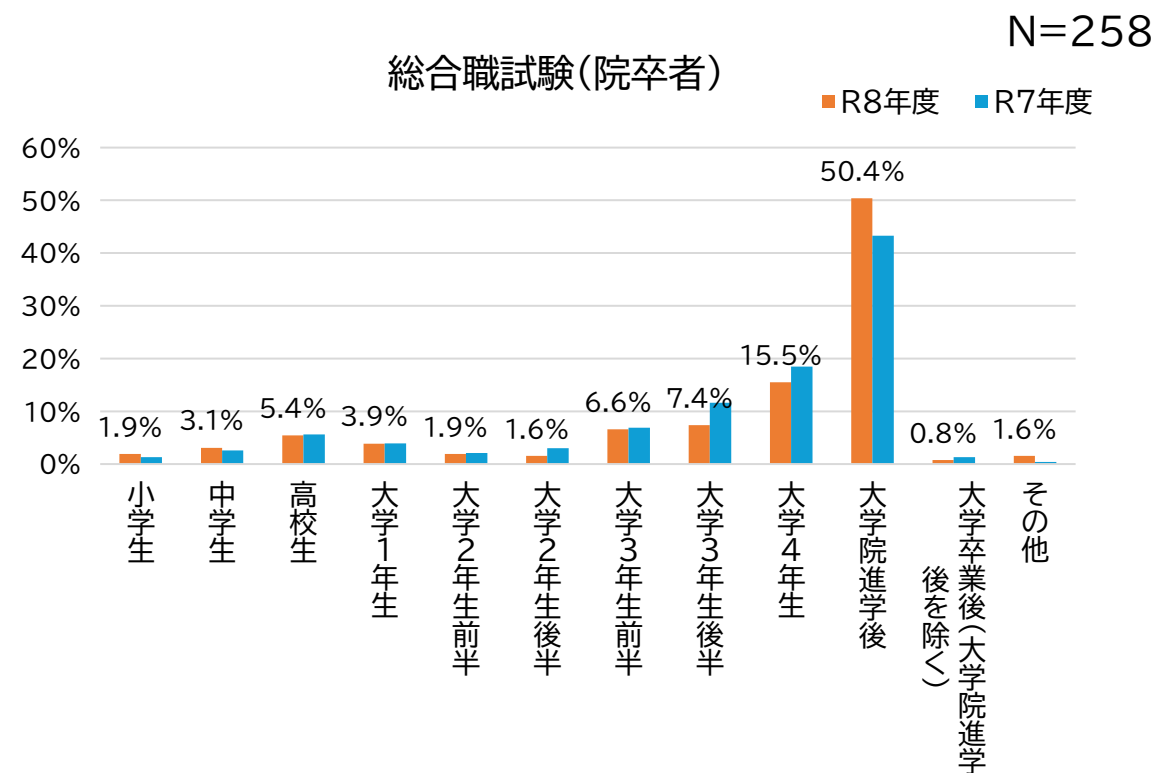
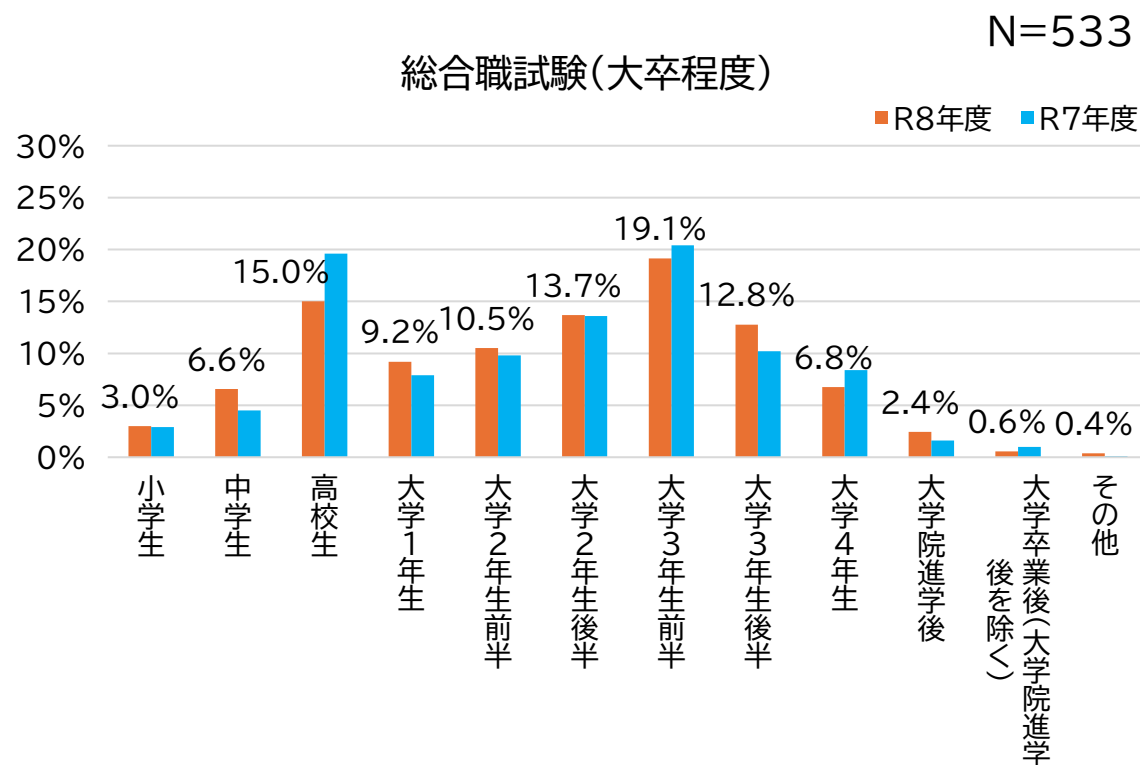
1. 国家公務員になろうとした主な理由(優先度が高い順に3つ選択)

- 国家公務員を志望した理由は「公共のために仕事ができる」との回答が最多(73.0%)。次いで多い「仕事にやりがいがある」では、令和7年度と比べ5.9ポイント上昇し、「スケールの大きい仕事ができる」は令和7年度と概ね同様の結果となった。
- 国家公務員への志望動機として社会的な意義や影響力が大きな要素となっている。



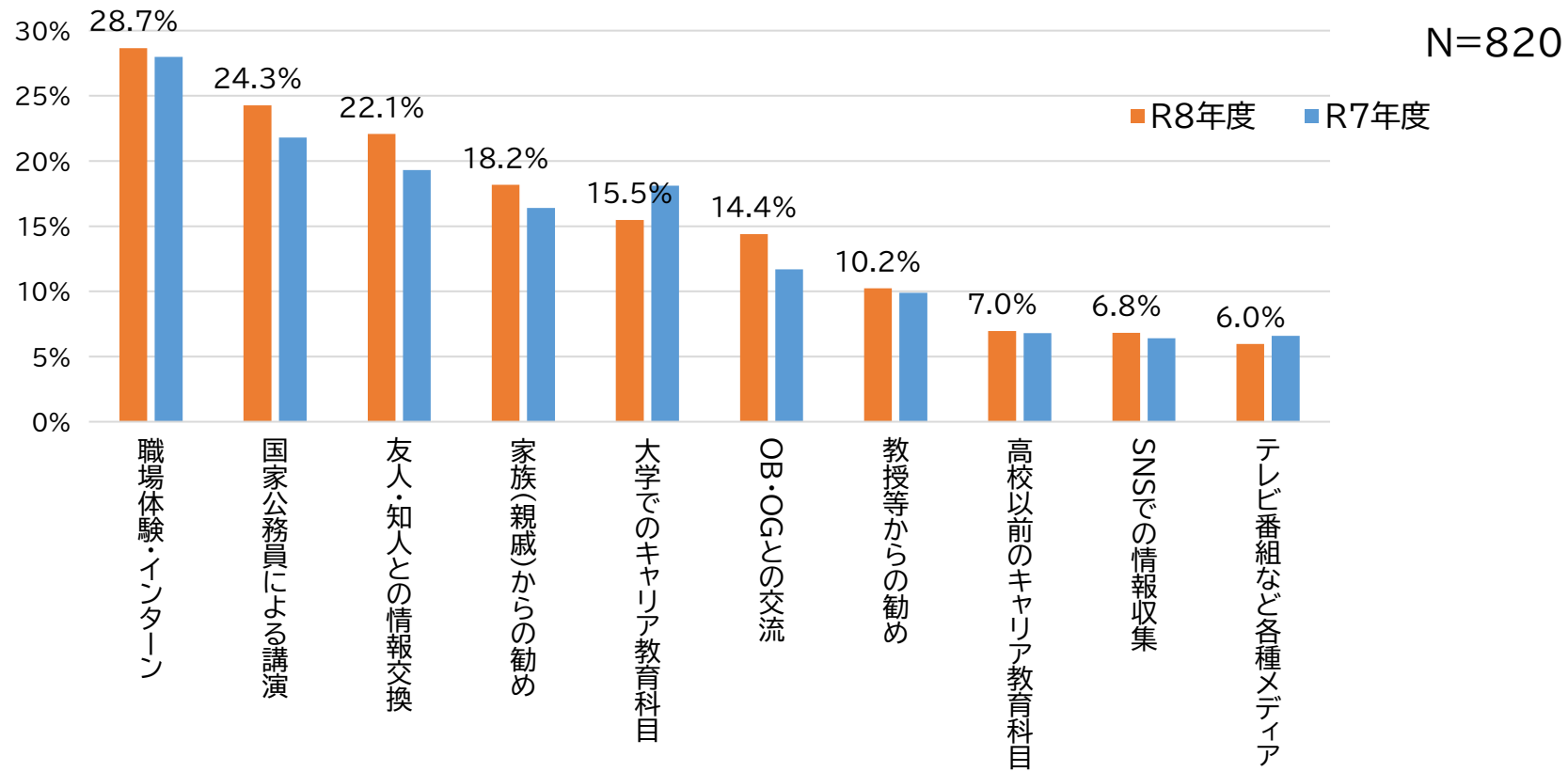
2. 就職先として国家公務員を具体的に意識した時期

- 総合職試験(大卒程度)では、大学3年生前半(19.1%)が最多。次いで、高校生(15.0%)が多い。大学2年生以下の時期から意識していた者が6割程度(58.0%)。
- 総合職試験(院卒者)では、大学院進学後(50.4%)が最多。
 - 就職にむけた進路選択のタイミングで意識する者が多い一方、特に総合職試験(大卒程度)では、大学2年生以下から具体的に意識している割合が多数であり、若年層へのPRが重要。



3. 就職先として国家公務員を意識したきっかけ(複数回答)

- 「職場体験・インターン」が最も高く(28.7%)、次いで「国家公務員による講演」が高い(24.3%)。
- R7年度と比較すると、「友人・知人との情報交換」(22.1%)、「家族(親戚)からの勧め」(18.2%)の回答が増加。
 - 就職先として意識するきっかけとなるのは、職場体験や身近な人物からの情報など、具体的な仕事や人のイメージを形成できる経験と考えられる。

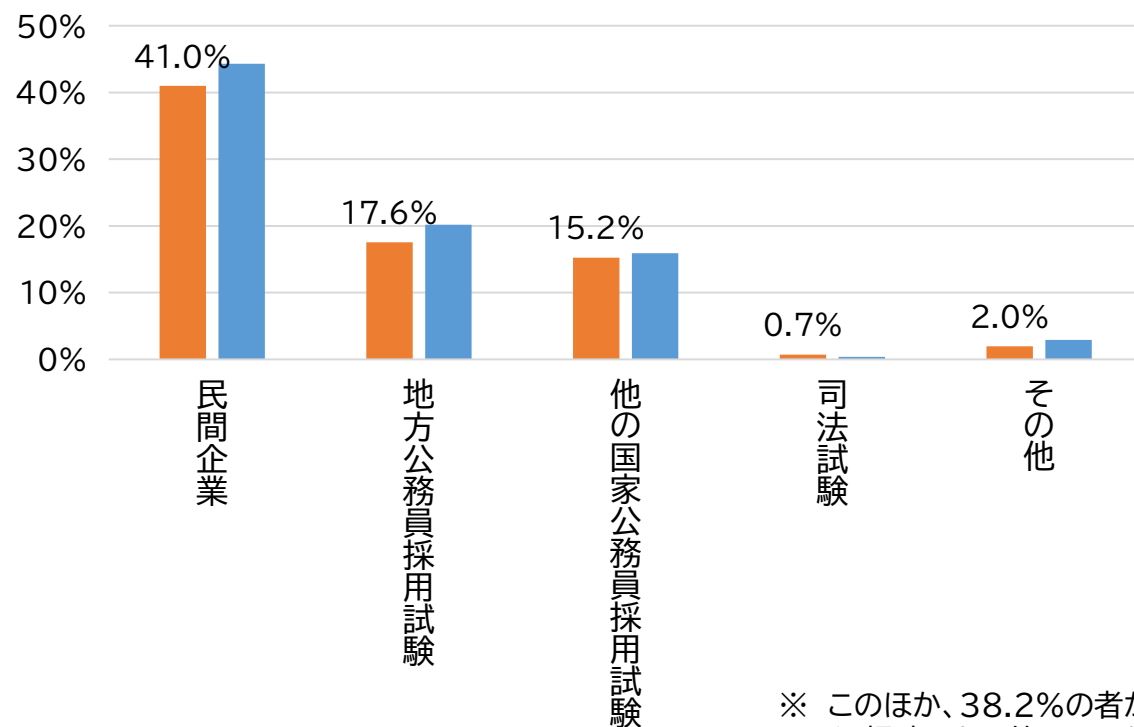


4. 採用された試験以外で合格または内定・内々定したもの及び民間企業の規模

- 回答者全体のうち、41.0%が「民間企業」の内々定・内定を得ており、このうち、内々定・内定先の企業規模が「1,000人以上」と回答した割合は84.2%。
 - 総合職試験等から採用された者は、規模の大きい民間企業への就職活動も行い、進路の選択肢として検討している。

採用された試験以外で合格又は内々定・内定したもの(複数回答) N=507

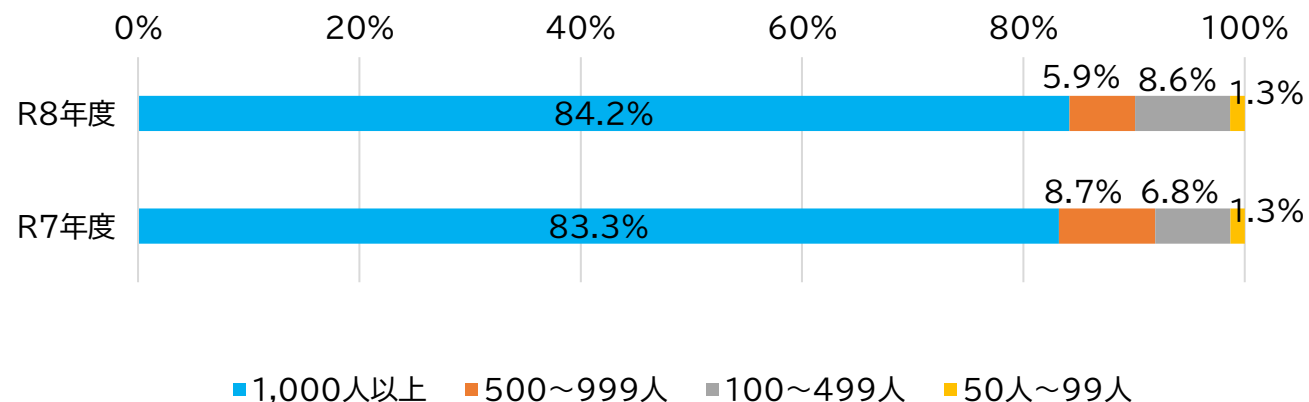
N=507



※ このほか、38.2%の者がいずれの選択肢にも回答していない。

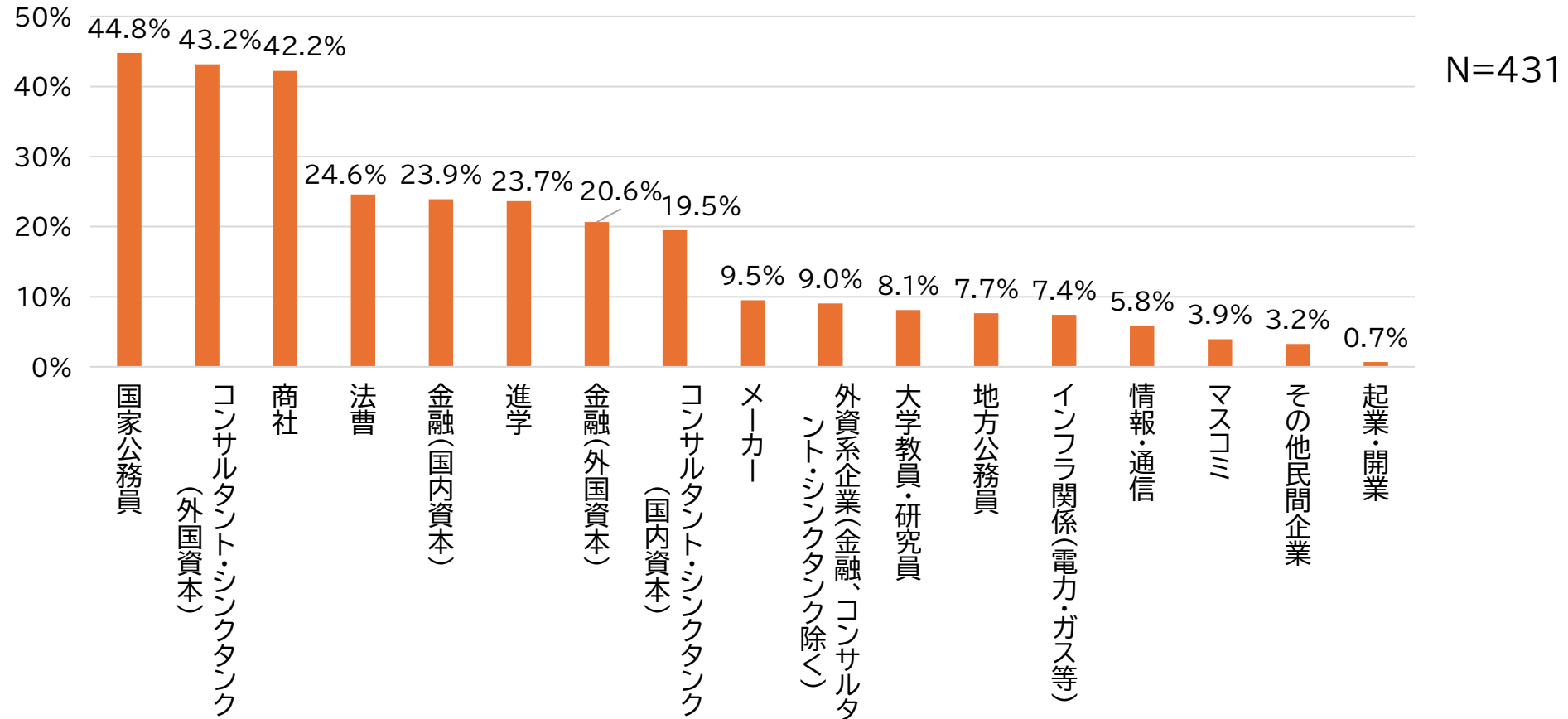
内定を得た民間企業の企業規模 N=336

N=336



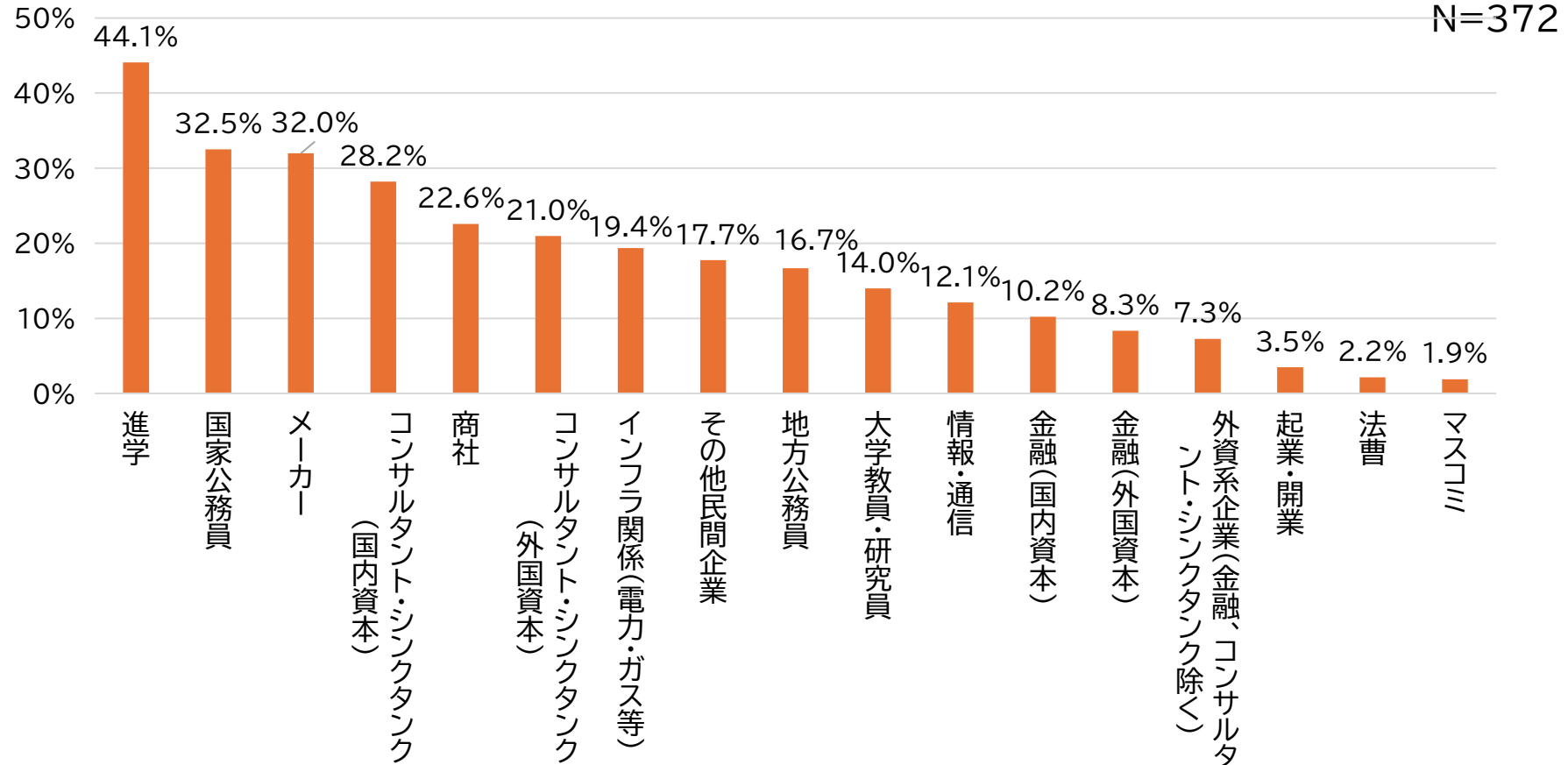
5. 周りの優秀な学生の進路(文系)

- 文系出身者では、「国家公務員」が最多(44.8%)となった。次いで、「コンサルタント・シンクタンク(外国資本)」が43.2%、「商社」が42.2%であった。
 - 文系出身者においては、「国家公務員」と並んで「コンサルタント・シンクタンク(外国資本)」及び「商社」の人気の高く、引き続き主な競合先となっている。



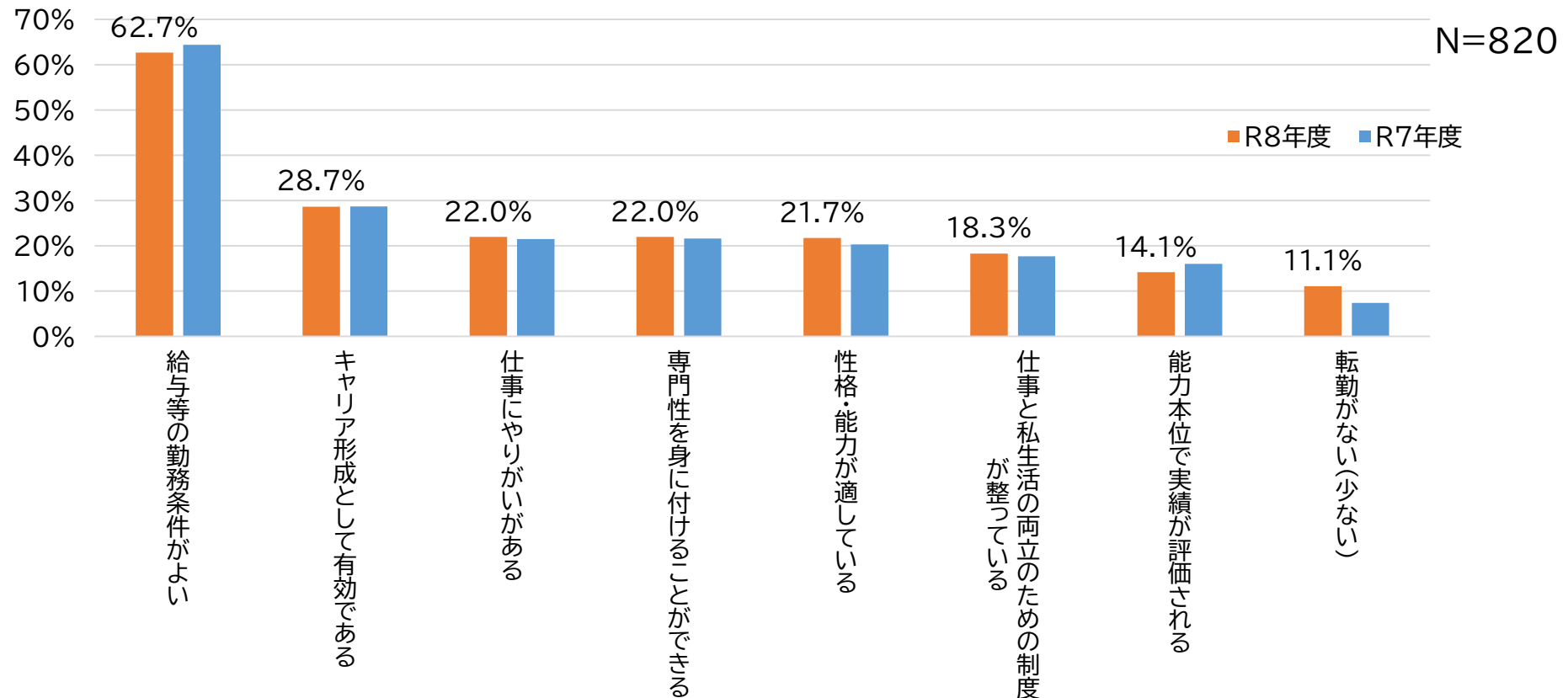
6. 周りの優秀な学生の進路(理系)

- 理系出身者では、最多(44.1%)である「進学」を除き、就職先としての回答は「国家公務員」が最多(32.5%)となった。次いで、「メーカー」が32.0%、「コンサルタント・シンクタンク(国内資本)」が28.2%であった。
 - 理系出身者においては、「国家公務員」と並んで「メーカー」及び「コンサルタント・シンクタンク(国内資本)」の人气が高く、主な競合先が文理で異なっている。



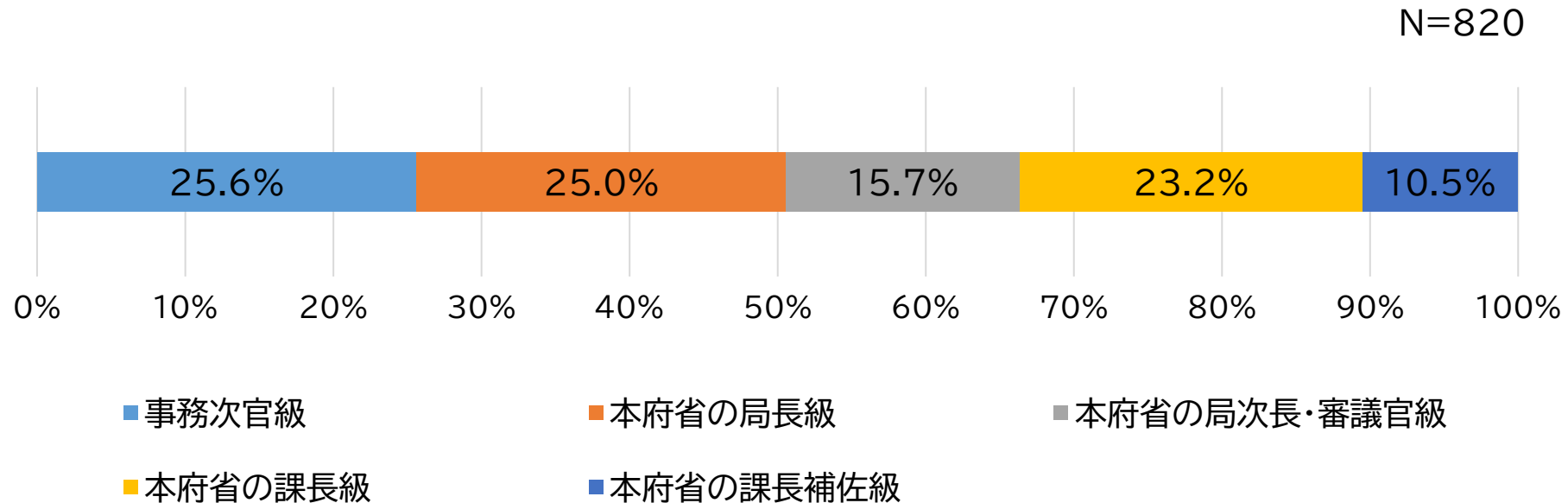
7. 周りの優秀な学生が国家公務員以外の就職先を選んだ決め手(優先度が高い順に3つ選択)

- 周りの優秀な学生が国家公務員以外の就職先を選んだ決め手は「給与等の勤務条件がよい」が62.7%で最多。
- 「キャリア形成として有効である」(28.7%)、「仕事にやりがいがある」(22.0%)、「専門性を身に付けることができる」(22.0%)との回答も一定数存在。
 - 勤務条件の改善など公務の魅力向上とともに、キャリア形成や仕事のやりがい等の魅力の発信も同時に進める必要がある。



8. 将来どこまで昇進したいか

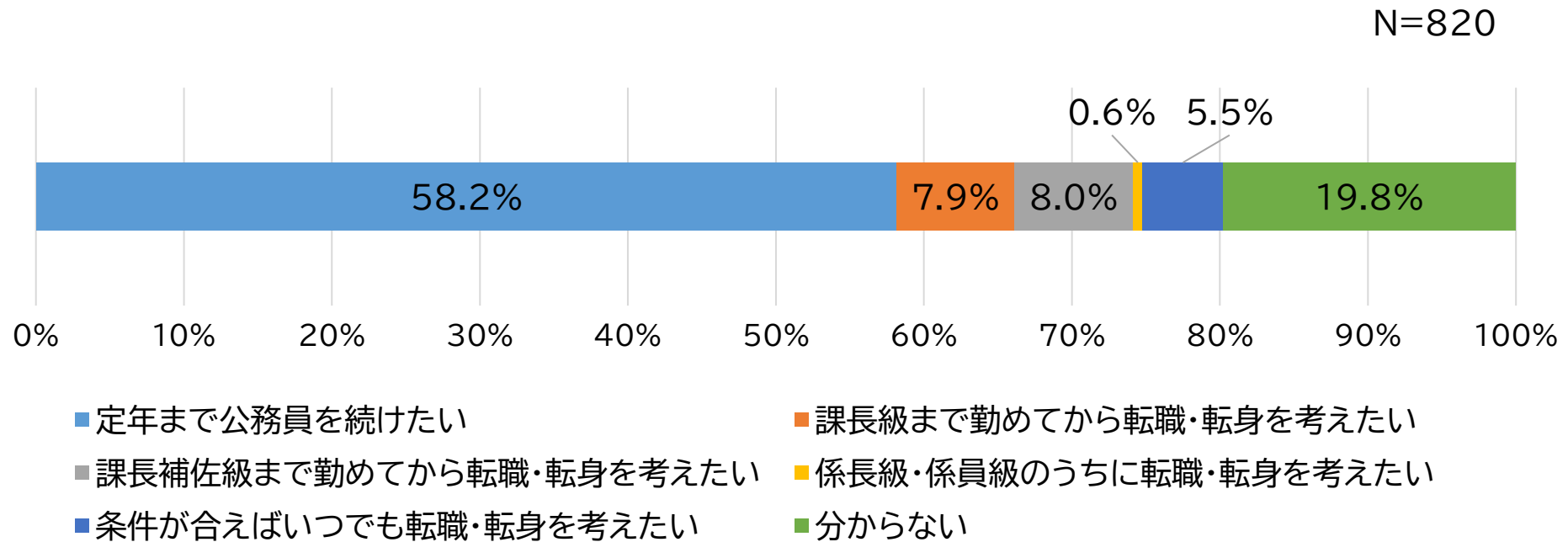
- 「事務次官級」まで昇進したいと思っている者が最多(25.6%)であり、次いで、「本府省の局長級」(25.0%)、「本府省の課長級」(23.2%)の回答が多い。
 - 総合職として採用された者の多くが将来的に職責の高い官職に就くことをキャリアパスとして視野に入れていると考えられる。



9. 国家公務員としていつまで働きたいか

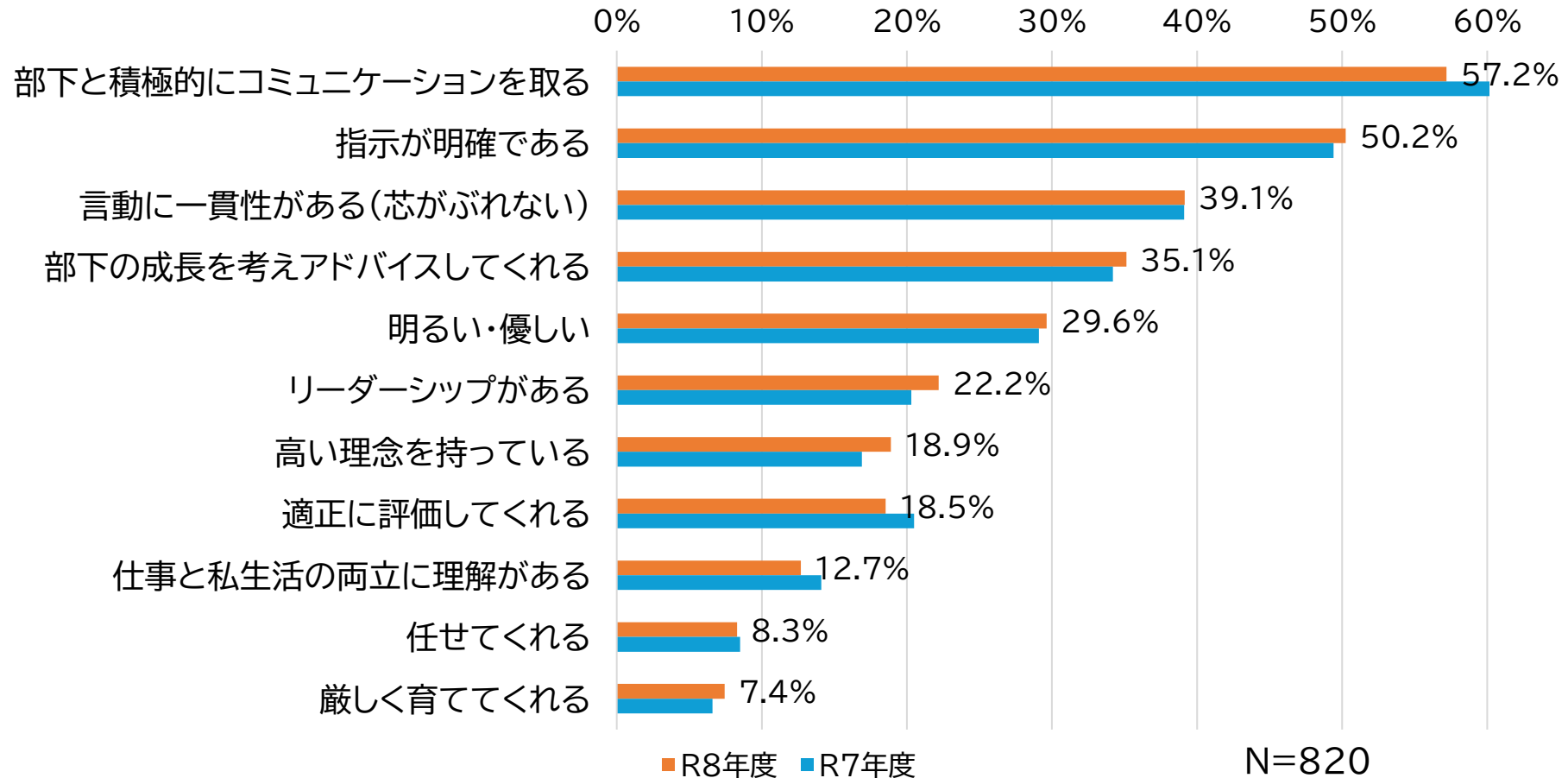
➤ 「定年まで公務員を続けたい」と思っている者が半数以上を占めている(58.2%)。

→ 新規採用の時点から、国家公務員としてのキャリアを長期間継続する意向を有しており、中長期的なキャリアパスを示すことが人材確保において有効と考えられる。



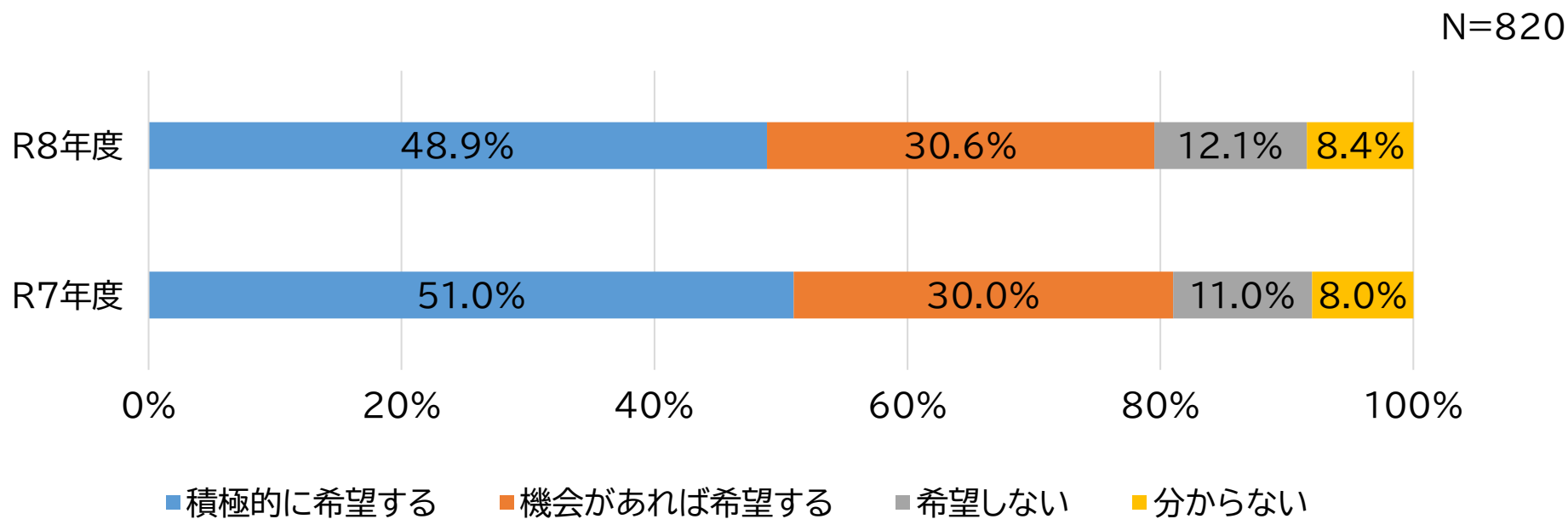
10. どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいか(3つ選択)

- 「部下と積極的にコミュニケーションを取る」が最も高く(57.2%)、次いで、「指示が明確である」が高い(50.2%)。
→ マネジメントに当たっては、コミュニケーションを通じた関係構築、指示や言動の明確性・一貫性、部下の成長支援が特に重要であると考えられる。



11. 国際的な経験(留学・海外勤務など)への興味

- 全体の約80%が国際的な経験について、「積極的に希望する」又は「機会があれば希望する」と回答した。
 - 総合職試験からの採用者の多くが国際的な経験に対する関心を有しており、在外公館での勤務や国際機関への派遣、行政官長期・短期在外研究員制度などの「海外経験」は、公務の魅力の一つと考えられる。



12. 公務の魅力向上、優秀な人材の獲得のために必要と考えられる取組(複数回答)

- 公務の魅力向上に必要と考えられる取組の上位は、昨年度からいずれも4ポイント程度減少しているものの、「給与水準の引上げ」(74.0%)、「超過勤務・深夜勤務の縮減」(50.5%)となっている。一方で、「広報活動を通じた国家公務員という職業のイメージアップ」(25.2%)及び「キャリア形成に役立つ様々な職務を経験させるとともに、将来のキャリアパスを示すこと」(26.2%)が昨年度からいずれも5ポイント程度増加し、順位も上昇。
- 引き続き給与の引上げや超過勤務の縮減も求められるが、公務のブランディングを通じたイメージ改善やキャリアパス等の明確化が魅力向上としても有効であると考えられる。

